

## 雲龍寺

1553 年に開かれたお寺です。現在の本堂は、1843 年に建てられたものです。このお寺で特に有名なのは、明治時代の足尾鉍毒事件の時に、鉍毒反対運動の中心となっていたことです。また、足尾鉍毒事件の解決のために命をかけた田中正造の墓もあります。



雲龍寺本堂

### (足尾鉍毒事件って?!)

このお寺の目の前を流れている川＝渡良瀬川は昔はとてもきれいな川で、たくさんの魚が捕れました。しかし、明治時代、上流に作られた足尾銅山の工場から流れ出した鉍毒水により、川の生き物たちは死に、流域の田畑は枯れ、人々は大変困ってしまいました。それに対し、栃木県佐野市出身の国會議員 田中正造が国会で鉍毒被害の様子について報告し、足尾銅山の操業を停止するよう訴えました。また、雲龍寺を「足尾銅山鉍業停止請願事務所」として、栃木・群馬・埼玉・茨城の鉍毒被害民とともに鉍毒反対運動を行いました。



人々を集めるために鳴らした半鐘

しかし、明治政府は、「富国強兵」政策をとっていたため、どうしても銅が必要と考えた結果、1900年、鉍毒停止をうったえるために東京に向かっていた被害民に暴力をふるい、さらに何人も警察に連れて行ってしまいました(川俣事件)。

### (田中正造の墓について)

田中正造の墓は、6カ所あります。それは、足尾鉍毒事件に苦しめられた人々が、「自分たちの所で田中正造の墓を作りたい」とそれぞれ主張したからです。館林市の雲龍寺のほか、佐野市の「佐野厄除け大師」で有名な惣宗寺と、浄蓮寺、藤岡町の田中霊祠、加須市立北川辺西小学校、足利市の寿徳寺の6カ所に分骨され、それぞれの場所で大切にされています。



田中正造の墓

## (救現堂について)

田中正造の7回忌に館林市本町にあった琴平神社の建物を移築したもの。正造が病気になる<sup>いけい</sup>ていたとき、「現在を救え、ありのままを救え」とさげんだことから名付けられました。建物の中には正造の木像がまつられています。



救現堂

## (環境学習の父 田中正造の考えを学ぼう)

田中正造は、一般的に「日本初の公害と戦った人」と表現<sup>ひょうげん</sup>されるようですが、この人の考え方は、「環境学習」の面<sup>めん</sup>でとても大切です。それは、田中正造が、1901(明治34)年12月10日に命<sup>いのち</sup>をかけて、天皇に渡<sup>わた</sup>そうとした手紙(直訴状)によく表<sup>あらわ</sup>れています。

### 【天皇への直訴状の内容】

- 1, 渡良瀬川の水源地(足尾の山)を自然豊かな場所にもどしてください。
- 2, 土砂の流出により浅くなってしまった川底を直し、昔のような川にもどしてください。
- 3, 鉱毒被害を受けた地域の毒でよごれた土を取り除いてください。
- 4, 渡良瀬川沿岸の天のめぐみを昔のようにもどしてください。
- 5, 渡良瀬川沿岸のおとろえてしまった多くの町や村を元にもどしてください。
- 6, 足尾銅山の仕事を止めさせ、毒水や毒くずが流出するのをなくしてください。

田中正造は、渡良瀬川下流にある館林や佐野などの鉱毒問題の解決のために、国や足尾銅山を相手に「戦った」人です。その人が、当時死刑にされることを覚悟しなければならぬ「天皇への直訴」により、最初に言いたかったことが、

**「渡良瀬川の水源地(足尾の山)を自然豊かな場所にもどしてください。」**

だとは、おどろきですね。この考え方は、「山と川(水)はつながっており、山が自然豊かなら、自然の恵み(魚などの水産物、農作物など)が下流の人々に与えられるし、洪水も減る」という自然環境と人間の関わり方を表しています。それから100年以上も過ぎた現在の日本も、田中正造から学ぶべきことが多そうですね。興味がある人は、館林市文化会館のすぐ近くにある「足尾鉱毒事件田中正造記念館」に行ってみましょう。



現在の渡良瀬川(渡良瀬大橋より)